

Y.S. 2018年卒 ボランティア養成コース

こんな学生時代を過ごしました

大学時代、ゼミ活動の一環として車いすソフトボールの普及に携わりました。初めはルールも分からず戸惑うこともありましたが、実際にプレーし、選手の皆さんと交流する中で、スポーツの本質に触れることができました。

特に印象的だったのは、障害の有無に関係なく、誰もが同じフィールドで楽しめるということです。笑い合い、励まし合い、勝って喜び、負けて悔しがる。そんな瞬間が、スポーツの持つ力を実感させてくれました。

また、活動の中で障がいを持つ方々と一緒に宿泊する機会もありました。夜にはお酒を飲みながら語り合い、普段の生活や思いを聞くことで、今まで経験したことのない視点や価値観に触れることができました。バリアフリーの環境づくりだけでなく、心のバリアを取り払うことの大切さを実感した時間でした。

この経験を通じて、誰もが参加できる環境づくりの意義を学びました。今でも、あの時間が自分の価値観や考え方に大きな影響を与えてくれたと感じています。多様性を尊重し、共に楽しむ場をつくることの意義をこれからも大切にしていきたいです。

クラブ活動では、硬式野球部に所属し、仲間とともに日々厳しい練習に励みました。3年時の秋季リーグ戦では優勝、九州大会では第2位という結果を残すことができ、チームとしても個人としても大きな達成感を得ることができました。

しかし、目標としていた神宮大会への出場は叶いませんでした。悔しさは残りましたが、最後まで仲間と全力で戦い抜いた経験は何にも代えがたい宝物です。勝敗以上に、努力することの意味や、支え合うことの大切さを学んだ時間でした。

今でも、当時の仲間とは年に一度集まり、思い出話に花を咲かせています。あの頃の熱い気持ちや絆は、時間が経っても色褪せることなく私の原動力となっています。

卒業後こんなキャリアを歩んでいます

大学卒業後、JR九州に入社し、鹿児島に配属されて5年間勤務しました。鉄道という公共インフラを支える現場で、多くの人々の移動を支える責任とやりがいを感じながら、運行管理や接客対応など幅広い業務に取組みました。日々の業務を通じて、地域とのつながりや安全・正確な運行を支えるチームワークの重要性を実感し、現場力と対応力を磨くことができました。

その後、より地域に密着した行政の立場から貢献したいという思いが強まり、熊本県庁へ転職しました。現在は、県民の暮らしに直結する政策や事業に携わりながら、公共サービスの在り方を日々考え実践しています。地域の声を丁寧に拾い上げ、課題解決に向けた施策を立案・推進する中で、行政ならではの責任と影響力の大きさを感じています。

大学で学んだ「地域創生」の知識や視点は、現在の業務において大いに活かされています。地域の課題を多角的に捉え、持続可能な発展に向けた取組みを考えるうえで、学びの土台が役立っていると実感しています。

これまでのキャリアを通じて、民間と行政それぞれの立場から地域社会に関わる経験を積むことができました。今後も、人と地域をつなぐ仕事に携わりながら、より良い社会づくりに貢献していきたいと考えています。

現役生へのメッセージ

大学生活は最も成長できる時間だと思います。時には失敗や葛藤も含めて、すべてが自分を形づくる大切な経験になります。振り返れば、私自身人間的に一番成長できた瞬間だったと感じています。だからこそ、今この瞬間をどう過ごすかが、きっと未来の自分を作っていきます。

新しい世界に触れ、さまざまな価値観に出会い、心が揺れるような経験をたくさんしてください。

(2025年10月21日執筆)



車いすソフトボール全国大会での打席。4年連続で北海道へ大会へ行ったことは良い思い出。社会人になってからも数回参加。



地創で得られた様々な人とのコミュニケーション力で仕事に全力投球。